

くつろぎ タイム

株式会社東日本放送
(青葉区双葉ヶ丘)
代表取締役社長
仙台商工会議所常議員・3号議員

もろずみ こういち
両角 晃一 氏
1956年生まれ
東京都出身
血液型A型

1981年朝日新聞社入社。秋田、静岡支局を経て、東京社会部へ。2005年から広報部長、役員待遇広報担当兼朝日新聞厚生文化事業団理事長などを経て、2012年6月より現職。

座右の銘は、「吾唯足知(われただたることをしる)」。「京都の龍安寺のつくばいに刻まれたこの四つの文字は、自分なりにこれで十分だと納得して、心安らかに生きよと語りかけてくれるようです。ですから、趣味の“日帰り温泉”に行ければ私は大満足なんです」と笑う。



日帰り温泉と一杯の生ビール、 ときどき読書を楽しんで、 心のぜいたくを味わっています。

単身赴任と伺いましたが、休日
はどのように過ごされているの
ですか。

週末に東京の自宅に帰る場合は、買い出しやら掃除など家事を手伝うのですが、仙台にいるときは、のんびりと自分だけの時間を過ごしています。実は日帰り温泉にハマっているんですよ。

仙台駅東口からバスに乗ると、例えば秋保温泉なら30〜40分で着いてしまいます。バスだと寝ているも目的地まで運んでくれますし、昼食を予約しておけば豪華な食事も楽しめます。ゆっくり温泉に入って、風呂上がりに一杯の生ビールを飲むのが本当に幸せだなと思うんですよ。

帰りのバスまでの間、持って来た本を読んだり、仕事の資料をチェックしたりして過ごします。今は、タブレットで雑誌なんかも手軽に読めますし、本读到らなくてもいいので、帰りのバスではほぼ100%寝てしまっています。気がつけば仙台駅です(笑)。

仕事の資料もあつた方がリフレッシュできるのでしょうか。

すっかり仕事から離れているつもりなのですが、温泉につかってポーツと頭の中をカラッポにしていると「あっ、そうだ!」といういろいろなアイデアが浮かんでくるんです。日ごろ気にかけていることもチェックできます。自分の頭の中の整理整頓の時間なので、これができなくなったらどうしようと思うくらいです。

私は東京生まれ東京育ちなものですから、気軽に日帰りで温泉が楽しめるなんて、これは、宮城・東北の人たちへ、自然からのご褒美なんだろうと思っています。

シニア世代は、温泉につかると「極楽、極楽」なんてよく言いますが、私も気がついたら「幸せだな」とか「申し訳ないな」という言葉が自然と口をついて出ます。「幸せだな」は分かるのですが、「申し訳ないな」というのは、一体誰に対してなのだろうと考えてみたことがあります。そして、それは亡くなった父に対してと気づきました。東京の下町で油商などを営む働き者でした。とても温泉好きだったので、ずっと働きづめでした。父がこんないい温泉に入ったら、きっと喜んでだろうなと思っ、そんな言葉が出てくるんでしょうね。

**食事や健康法で気をつかわれて
いるというはありますか。**

夜の会合がない日は、夕食は自宅で食べます。料理が好きというよりは、一人で食べる方が気楽なんです。冷蔵庫の食材で至極簡単な料理を作り、缶ビールを一本空けると、仕事から解放されてリラックスできるような気がします。

東京にいる頃は、よくスポーツクラブのプールで泳いでいたのですが、いまはなかなか時間がとれないですね。ですからウォー



愛車の「流星号2号」で街巡りをする両角社長(西公園にて撮影)。

キングというほどではないのですが、夜に音楽を聴きながら30分くらい歩くこともあります。

これから挑戦したいことはありますか。

実は、こちらに赴任してすぐに仙台三十三観音を訪ねようと目標を立てて、ママチャリと一眼レフカメラを買いました。本来は歩いて巡るのですが、それはちょっと大変なので、ママチャリで回ろうと。でも、なかなか実現できずに現在に至ります。果たしていつになったらできることやら、と思うのですが、日帰り温泉の回数を減らさないことには、どうにもなりませんね(笑)。

最後に、お仕事の近況を教えてください。

2015年度は東日本放送開局40周年の記念の年として、これまで宮城の皆さまからいただいたご愛顧に感謝して、地元・宮城の実話である『殿、利息でござる!』という映画を制作しました(5月7日から宮城県で先行上映)。原作は磯田道史さんの『無私の日本人』の中の一編、『穀田屋十三郎』です。

テレビ局の記念事業ですから、当初社内でも「TVドラマを作りたいね」という話になりまして、KHBとご縁のある中村義洋監督に相談してみました。中村監督と原作を探している中でこの本と出会い、監督がたいへん感銘を受けて、「ぜひ、この本で作りましょう!」と、気がついたらTVドラマが映画になっていました(笑)。原作の阿

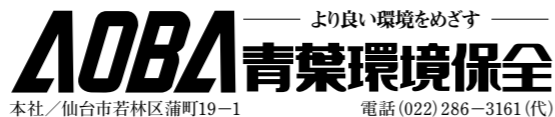
部サダヲさんをはじめ、本当に豪華なキャストの皆さんがたくさん出演してくださいました。中でも仙台藩主・伊達重村役を、羽生結絃選手が演じてくださったことは本当にありがたかったです。羽生選手自身、東日本大震災で被災して、いろいろな意味で苦しい思いをされた。それでもソチ五輪で見事、金メダルを取り、被災地の人々に勇気と希望を与えてくれました。私たちは、「殿」役はこの人しかいないと確信して出演をお願いしました。受けてくださるという連絡が入ったときは、思わず自分の頬をつねりましたよ(笑)。

この映画は、250年ほど前の宿場町・吉岡であった史実です。厳しい年貢で町が破産寸前になったとき、9人の篤志家たちが立ち上がるんです。なんと親の代からこつこつとためてきた全財産をかき集め、千両という大金を殿様に貸し付ける。そして、その利息で町を救済したのです。さらに、これは自慢話ではないので決して広めないようにと、言い伝えられてきたということです。まさに「無私」の心であり、後世に残したい宮城・東北人のDNAだと思います。

それから、もう一つ、ビッグプロジェクトがあります。これからのテレビ局のあり方を考え、より利便性が高く、地域と交流できる場所として、あすと長町への移転を決め、3月上旬に土地取得契約を締結しました。2021年度の竣工を目指し、今年6月には「新社屋建設委員会(仮)」を設置し基本計画をまとめていきます。長町をはじめとして周辺地域にはたくさんの方の可能性があります。KHBは地域メディアとして、地元の皆さまとともに街づくりに関わらせていただき、地域の魅力の創出と発信に努めてまいります。

『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。



本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)

